

私の生涯の道楽

長谷川 知道(28期)

人には、十人十色の趣味があるものだ。他人に理解ができない趣味も多々あるが、それを人は道楽と呼んでいる。私の趣味は映画のサウンドトラックを集め、聴くことであるが、40数年も続けていると立派な道楽である。

サウンドトラックとは、映画やテレビのドラマでバックに流れている音楽のことである。オープニングとエンディングに流れるボーカルなども含まれるが、主に劇中の中で流れる音楽のことで、これをスコアという。

このスコアが劇中で流れる演奏と同じものがサウンドトラックである。私と同年代の方たちは同じ経験をしていると察するが、60年代から70年代にかけて、テレビの子供番組は、画期的な進歩を遂げ、円谷プロの「ウルトラマン」や海外の「サンダーバード」など釘づけになる番組が登場した時代である。

この時代は、番組を録画することや、安価でその映像を購入することもできなかった。唯一、可能だったのは、番組のダイジェストや主題歌が収められているソノシートだった。両親に沢山のソノシートを買ってもらい、一日中それを聴いて、番組の名場面を思い出していたものだった。恐らく、これが私のサウンドトラックに興味を持つことになった、所謂ファーストコンタクトである。

私をはじめ、サウンドトラックを買ったのは、中学生になり、テレビ番組から映画に興味を持った1970年である。当時、ジェームズ・ボンドがジョン・コネリーから新しいボンドに替わった映画「女王陛下の007」のドーナツ盤レコードである。あの有名な「ジェームズ・ボンドのテーマ」と小中学生には、ドキドキしてしまいそうなジャケットデザインに翻弄されてしまった。

そして、はじめて買ったLPレコードは、それから1年後だったが、当時一枚2千円で、私の月額のお小遣いとほぼ同じ金額だったので、購入には凄く慎重だった。今より、よっぽど、サントラの良し悪しの利き耳を持っていたかもしれない。記念すべきLPレコード第1号は、「スターウォーズ」や「ジョーズ」の作曲で有名なジョン・ウィリアムスの若き頃に作曲した映画「ジェーン・エア」のサントラだった。ピアノを基調にした美しいメロディが全編に流れる素晴らしいスコアである。

今でも、5本の指に入るお気に入りのLPレコードである。城南高校では、陸上部に3年間所属していたが、現代ならPODで、お気に入りの曲を聴きながらトレーニングをすることだろうが、当時は、そんなものはなかったもので、トレー

ニングでジョギングをするときは、頭の中で曲や映画の名場面を妄想しながらしたものである。そして、高校2年生のときに、私の趣味の世界に黒船がやって来たのである。

それまでは国内盤のレコードを購入していたので廃盤になると諦めるしかなかったのだが、渋谷にサントラ輸入盤専門店「すみや」が登場し、ついに私の趣味から道楽への扉が開いてしまったのである。その店には、国内では廃盤になり、諦めていたサントラLPの輸入盤やリリースされていたことも知らなかった映画やテレビのサントラが星の数ほどあり、驚嘆だった。

小遣い、昼食代、バイトの収入のほぼすべてをなげうって、この店で輸入盤レコードを買い漁ったものだった。この店への活動は、閉店になるまでの30年間続くのであった。社会人になった頃から、映画のサウンドトラックから、映画音楽作曲家に興味が出てきて、ハリウッドの映画音楽作曲家、ジェリー・ゴールドスミスと親しくなり、彼が名誉会長をしている英国の映画音楽クラブの日本の代表を務めている。今年で20年になるが、2004年にジェリーが他界して以来、盛り上がりにはひとつ欠ける今日この頃である。

私の道楽の話は、無限にお話しできるが、制限文字数の関係でここまでにする。私が何点のサントラを所有しているかは、いつかまた機会があったら、お話ししよう。映画音楽よ永遠なれ！